

九州運輸局メールマガジン 平成24年10月25日 第189号

～九州の明日を拓く運輸と観光～

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>

目次

1 九州運輸局ホームページアップ情報（10月18日～10月24日掲載分）

- ・各種情報
- ・分野別情報
- ・報道発表
- ・お知らせ

2 着任のご挨拶

九州運輸局企画観光部長 橋本 昌典

3 現場レポート

- ・長崎港で船舶事故を想定した避難訓練を実施
～膨脹式救命筏（いかだ）の使い方を学ぶ～
- ・～物流業の魅力を大学生に発信～
実践仕事塾「物流スペシャリスト育成講座」が始まりました！

4 九州運輸局セミナー

1 九州運輸局ホームページアップ情報

（10月18日～10月24日掲載分）

----- 各種情報 -----

《入札・契約情報》

九州運輸局入札監視委員会第14回定例会議審議概要について（追加）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/body.htm>

《九州のうんゆ》

九州のうんゆ（平成24年7月分）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kyushuunyu/body.htm>

《九州統計情報》

自動車保有車両数（平成24年9月分）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/toukei/j_touroku/syaryousuu2409.pdf

新規登録自動車数（平成24年9月分）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/toukei/j_touroku/shinkitouroku2409.pdf

燃料別等自動車保有台数（平成24年9月分）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/toukei/j_touroku/nenryoubetsu2409.pdf

----- 分野別情報 -----

《物流》

倉庫業の新規登録状況（平成24年9月分）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/ji_bu_ka/souko/souko2409-2.pdf

《公共交通活性化》

地域交通に係る利用促進の成功事例（平成24年10月）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyomu/kikaku/file33/20121022kotsukikakuka.pdf>

----- 報道発表 -----

ILO海上労働条約の批准に伴う国内制度改正（船員法関係）説明会の開催

～船員の労働環境の向上を目指して～

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2012-1019-seninrodokankyo.pdf>

平成24年自動車関係功労者国土交通大臣表彰受賞者名簿（九州運輸局管内分）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2012-1022-jinjika3.pdf>

平成24年自動車及び観光関係功労者九州運輸局長表彰について

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2012-1022-jinjika.pdf>

香港旅行会社を招請し、九州独自の「観光列車」を利用した南九州観光をPRします！

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2012-1024-kokusai.pdf>

----- お知らせ -----

平成24年度事故防止対策支援推進事業（運行管理の高度化に対する支援）の
2次募集を行います。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/file001_022/pdf/2012-1019-hoan.pdf

平成24年度整備管理者選任前研修の開催について

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/file001_022/pdf/2012-1024-hoan.pdf

2 着任のご挨拶

9月11日付けで企画観光部長を拝命した橋本です。ご挨拶遅くなりました。
着任が少し遅れたこともあり、福岡に勤務して1月ちょっとが経過しようとして
います。

この間、熊本、鹿児島、宮崎に出張する機会がありましたので、それぞれの
支局の方々にはお会いすることができました。まだお会いしていない支局の
方々にも近々出張で訪問させて頂くつもりです。

2回目の九州勤務です。

前回は、もうご存じの方もいらっしゃると思いますが、3年前まで宮崎県
警察本部に2年間赴任しており、この赴任期間は、東国原前知事で一時ブー
ムになった時期でした。

今回福岡にきてみて、九州新幹線全線開業の効果もあるのでしょう、福岡を
はじめ、沿線地域の大いなる活気を感じています。

この活気をうまく生かしながら、私の所掌分野である地域交通の活性化、観
光振興について、地域に根付いた国土交通省の一組織としていろいろな取り
組みを九州全域で展開していければと思っています。

それでは皆さん、よろしくお願いします。

【九州運輸局企画観光部長 橋本 昌典】

3 現場レポート

長崎港で船舶事故を想定した避難訓練を実施 ～ 膨脹式救命筏（いかだ）の使い方を学ぶ～

九州運輸局長崎運輸支局では平成24年9月27日（木）長崎地区船員労働安全衛生協議会、長崎旅客船協会とともに船員とその関係者108名を対象に膨脹式救命筏を使つての脱出避難訓練を実施しました。

この訓練は海上における船員の労働災害と疾病の防止を目的として毎年9月に活動している船員労働安全衛生月間に合わせて「長崎地区船員労働安全衛生講習会」として行ったものです。

いつも危険と隣り合わせの海で活動する船に備わっている各種救命設備は、沈没や火災など、いざというときにすぐに使えるように訓練等を通じて慣れておくことが重要です。

膨脹式救命筏は万が一船が遭難して脱出する際に膨らませて使うゴムボートのような救命設備で、白い米俵のような容器に折りたたまれて格納されているため、普段、船員の目に触れることがなく、訓練で使う機会はあまりありません。

そこで、実際に膨脹式救命筏を海に投下して救命設備の操作法や脱出方法を身につけてもらおうと、長崎港の出島岸壁をフェリーに見立て、船内で火災が発生、旅客を安全に膨脹式救命筏へ誘導し脱出するという想定で訓練を実施しました。

内容としては座学で海難発生時の対応、退船避難の方法と心構えを全員で学んだ後、乗組員役と旅客役に扮した地元旅客船船員13名により、救命胴衣の着用、筏の投下、反転した筏の引き起こし、落水者の救助、旅客の筏への避難誘導、落下傘信号の打上などの実技を行いました。

参加者からは「筏を実際に扱う機会はなかなかないので、いい経験ができた。」との感想が寄せられました。

また、当日、夕方のニュース（民法3社！）でこの訓練の様子が放映されたことで、船舶の安全思想や船員の事故防止に対する取組について、広く一般の人に知っていただくことができたものと思います。

当日の様様は下記のURLからご覧になれます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_189.pdf

【九州運輸局 長崎運輸支局】

～ 物流業の魅力を大学生に発信～

実践仕事塾「物流スペシャリスト育成講座」が始まりました！

物流業は、わが国の生産や経済活動を支える大変重要な産業で、近年の企業活動のグローバル展開に伴い、その役割はますます重要になるとともに、物流業界には、これら高度化したサービスを提供するための優秀な人材の確保が大きな課題となります。

また、物流サービスの高度化や効率化に向けては、メーカーや商社、小売りなど様々な業種が、荷主の立場から、直接或いは物流管理会社を介して、トラックなどの実運送業者と連携して取り組みを行っていることも多く、こうした荷主物流においても優秀な人材確保は重要です。

こうした状況から、九州運輸局では、優秀な学生が物流業界へ就職を希望するよう、地元大学、物流企業と連携して、物流の重要性や将来性、仕事の魅力などの理解を深めてもらう目的で物流講座を開催しています。

この取り組みは、既に6年目を迎え、今年は昨年に続いて福岡市の西南学院大学において、実践仕事塾「物流スペシャリスト育成講座」と称して、10月22日から11月19日まで、物流企業の第一線で活躍される方等を招いて5講座開催する計画です。

10月22日の第1回目は、当局物流課課長補佐が「国が行う物流施策」と題して講義を行いました。参加した学生は商学部学生を中心に20名、皆真剣に講義に耳を傾け、講義後は活発に質問が出されました。

今年度の開催スケジュールは次のとおりです。

- 10月22日：「国が行う物流施策：九州運輸局物流課」
- 10月29日：「卸売業とコンビニの流通：ヤマエ久野(株)」
- 11月 5日：「百貨店の物流：(株)岩田屋三越」
- 11月12日：「国際物流・フォワーダーの視点：山九(株)」
- 11月19日：「国際物流・商社の視点：三井物産(株)」

なお、福岡大学商学部では、この取り組みがステップアップして、2単位が取得できる「物流関係特別講座」となり、物流業界の人材育成に成果を挙げています。

当日の様子は下記のURLからご覧になれます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_189-2.pdf

【交通環境部物流課】

4 九州運輸局セミナー

九州運輸局の各課から業務内容等を紹介するコーナーです。
今回は、海事振興部 港運課です。

海上輸送と陸上輸送との物流結節点

港運課では、港湾運送事業法に基づく許認可業務等を行っています。

周囲を海で囲まれた我が国は、資源が乏しいことから鉄鉱石や石炭等様々な原材料を諸外国から輸入するとともに、工業製品に加工して世界に輸出しています。

それらの貨物のほとんどは、船で海上輸送されています。

これらの輸入した原材料、輸出する工業製品等は、国内では鉄道・自動車により陸上輸送されています。港湾運送事業は、指定港（指定された港）において海上輸送と陸上輸送とをつなぐ役割を担っています。

港湾運送事業と指定された港

港湾運送事業法では、一般港湾運送事業、港湾荷役事業（従前の船内荷役事業と沿岸荷役事業が、昭和59年の法律改正により統合されたもの。）はしけ運送事業、いかだ運送事業、検数事業、鑑定事業、検量事業を、港湾運送事業と定義しています。

港湾運送事業を営むためには、事業ごと、港ごとに事業許可が必要です。検数事業、鑑定事業、検量事業も事業許可は必要ですが、港ごとに事業許可を取得する必要はありません。

また、港湾運送事業法では、北海道の稚内港から沖縄県石垣港までの93港を指定港として定めています。九州運輸局管内では、関門港、博多港、三池港、水俣港、鹿児島港、苅田港、大牟田港、唐津港、伊万里港、臼杵港、相浦港、佐世保港、長崎港、三角港、八代港、大分港、津久見港、佐伯港、細島港、油津港、名瀬港、宇部港、小野田港の23港が指定されています。

指定港における貨物取扱量

平成23年度の九州運輸局管内における港湾運送事業者による指定港での船舶積み卸し実績は、1億8475万トンで対前年比2.5%（443万トン）の増加となり2年連続で増加しています。

中国をはじめとした、新興国の経済成長に伴う需要の増加が好材料となり、コンテナ貨物、自動車等、全般的に貨物量が増加し、平成19年度の1億8096万トンを上回り過去最高の取扱量となりました。

このうち、全体としての取扱い品目は、約3割がコンテナ貨物で占めており、続いて石炭、金属鉱、自動車の順となっています。

港ごとにも特徴はあり、世界各地とコンテナ航路を結んでいる関門港・博多港ではコンテナの取扱いが多くなっていますし、背後地に新日鐵住金株式会社などの製鉄所がある関門港、大分港では石炭の取扱いが多くなっています。

そのほか、株式会社ブリヂストン下関工場では、国内で5番目のタイヤ工場として世界一の巨大タイヤ（現在世界最大径の外径4.02m、幅1.47m、重量5.3～5.6t）が作られています。この工場は露天掘りの鉱山やダム建設現場などで使われているダンプトラックやショベルローダーなどの超大型建設車両用のタイヤを作る専用工場で、ここで作られたタイヤのほとんどが工場内の港から直接船に乗せて、アメリカ、オーストラリア、ロシア、中南米、アフリカなど世界各地に輸出されています。

最後に、港運課は地味な課ではありますが、世界に羽ばたく港運事業者の発展のため（幸せが運べるよう）がんばってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【海事振興部 港運課】

//////// 編集部より //////////////////////////////////////
金婚式のお祝いに新幹線に乗って義理の両親がやってきた。5号車に乗るはずが7号車に乗り、座席を探してやっと座ったら博多駅に着いてしまった、と笑っていた。80歳夫婦の珍道中だ。

我が家に着いてタブレット端末を見せてみた。お絵かきアプリで早速絵を描いている。奪い取るように母は「刺し子の図案を見たい。」と言う。検索してやるとかぶりつくように見ている。「これはいかん、グランドゴルフに行くより面白い」と父が言う。デジタル文庫などもあつという間に動かし方を覚えてしまった。

高齢者に優しい端末という噂は本当だな、と感じた。

ゲームで身体の方が動いてしまうのはご愛敬だ。こんな感じだったら、端末をプレゼントするのも有りなのかな、と思う。

80歳の夫婦を連れて博多駅を歩くのは、5歳児を連れて歩くのに等しい。常にトイレの確保が必要で、目を離すとお土産売り場に一直線だ。

怒濤の二日間が終わり、ほっとしてタブレット端末を見ると母が一句残していた。

『我が身年取り今が旬』

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧ください誠にありがとうございます。

編集部では、運輸と観光行政に関する取組や話題、イベントの案内、地域の情報等、本メールマガジンへの掲載記事を広く募集しています。お気軽にご投稿ください。

//

■九州運輸局メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/top.html

■九州運輸局メールマガジン編集部（九州運輸局総務部内）

mail : mm-kyushu@qst.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192